

2026年1月24日（土）の中国新聞に掲載されました

# 中高生の県内進路参考に

## 広島での仕事や大学の魅力 冊子で紹介



学校に届いたさくらノートを手取る、広島修道大協創高（広島市西区）の生徒

若者の県外流出が課題となる中、中高生に先輩の活躍ぶりを通じて広島でのキャリアを考えてもらう冊子「さくらノート」の本年度版が完成した。仕事に打ち込む若者を取り上げたほか、新たに大学などの情報も盛り込んだ。県内の全高校や希望する中学校に無料で配っている。

（新本恭子）

地元出身の10〜30代計29人（佐伯区）の在校生が進路選択の理由や今の学び、学校（広島市西区）安田女子大（安佐南区）広島工業大（佐伯区）の在校生が進路選択の理由や今の学び、将来の目標などを語る。仕事については金融や不動産

## 「さくらノート」25年度版完成

産、建設など15社の社員が、業務内容ややりがいを感じる瞬間などを伝えている。高校生が広島市の未来を語り合った6、7月の催しの様子も収録。B5判64ページで8千部刷り、専用のウェブサイトで無料で読める。官民連携組織の広島都心会議と、編集プロダクションのガリバープロダクション（中区）が、広島の魅力を伝えようと昨年度に創刊した。毎年度1回発行し、今回は「第1号」の位置付け。編集途中で高校生から「広島にはいきたい大学がない」という声を聞き、急ぎよ大学の特集も企画した。都心会議「シビックプライドワーキンググループ」リーダーを務めるガリバープロダクションの大森富士子編集長は「生き生きと学び、働く先輩の姿から魅力的な大学も仕事もたくさんあると知ってほしい。中高大・企業が協力し合い、次号以降も若者の広島愛を育てたい」と力を込める。